

WORKSHEET

ワークシート

あなたが社会に貢献したいことは何ですか

上記を踏まえ、どんな仕事がしたいですか

日鉄物流でやってみたいことは何ですか

お問い合わせ

〒103-0027 東京都中央区日本橋1丁目13-1 日鉄日本橋ビル

TEL : 03-3241-6474

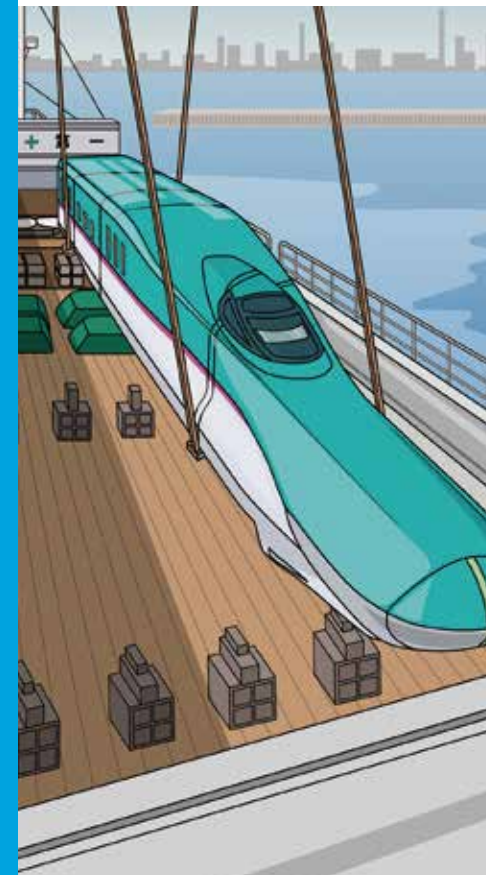
技術系業務紹介
はこちら！



採用サイト
マイページはこちら！



技術の発展が、 物流の未来だ。





「鉄を運ぶ」ことで培った 高度な技術力とノウハウ

製鉄に関わるすべての輸送をはじめ、様々な物流ニーズに対し、これまでに培ってきたノウハウや、最新技術を用いた物流ソリューションで、高品質の物流サービスを提供しています。



日鉄物流は、日本製鉄グループの中核物流企業として製鉄操業に関わるあらゆる物流を担っています。鉄鋼物流で培った物流技術を活かし重量物・容大物輸送で暮らしや社会を支えています。



海上輸送

200隻を超える業界屈指の船団に船舶運航管理システムや船舶位置情報ビジュアル化システムによるサポートを加え、効率的で安定した輸送サービスを提供しています。特に鉄鋼製品・プラント類の重量物や原材料などバラ物貨物について、これまで培ってきた長年のノウハウと全国に展開しているネットワークを活かし、安全な輸送体制を構築しています。



港湾輸送

東北から九州まで私設バースと岸壁クレーン、倉庫を備えた物流センターを配置し、製品の船揚げから保管、輸送までの安全・安心・安定を最優先に、効率的な物流サービスを提供しています。



陸上輸送

日本製鉄㈱の鉄鋼製品を中心に、様々な製品を各製鉄所や物流センターからお客様まで、日々約2,500台の車両で輸送しています。輸送に当たっては、交通事故や品質異常の発生を防止するため、グループ会社と一体となった活動を展開し、高品質な輸送の維持に努めています。



国際輸送

日鉄物流グループは、タイ・インドネシア・中国・アメリカにおける鋼材輸送、プラント輸送を中心に、国際物流の拡大を図ってきました。タイ・中国などの海外現地法人との連携による一貫物流管理、定期用船を中心とした在来船の運航、コンテナの活用、さらには日本主要港での輸出入貨物の通関と、幅広い国際物流に携わっています。



首都高速道路(株)

重量物・容大物輸送

これまで培った豊富な技術とシステムを、重量物・容大物の輸送に活かしています。ジャケット構造物・大型建築物・橋梁などの鉄鋼構造物をはじめプラント輸送の実績も数多く、お客様のニーズにお応えしています。



製鉄所構内輸送

日本製鉄㈱の全国各地の製鉄所構内において、大型ダンプ・キャリアカー・無人搬送台車(AGV)、ディーゼル機関車などの大型設備を活用し生産活動の一翼を担うとともに、倉庫作業・梱包作業なども合わせた製鉄所構内の一貫物流を請け負っています。

Our jobs

製品がお客様のもとへ届くまで、
 様々な工程があります。
 工程の流れを紐解きながら、
 技術部門で行っている業務内容を
 紹介していきます。

鉄鋼製品が お客様のもとへ 届くまでの流れ



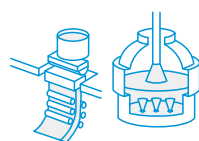
原料

鉄の原料となる鉄鉱石・石灰等を海外から輸入します。輸入された原料は、高炉へと運ばれます。



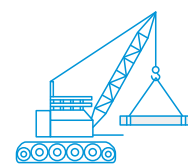
高炉

原料を高炉で溶かして不純物を取り除き、銑鉄を作ります。銑鉄は特殊な貨車で製鋼まで運ばれます。



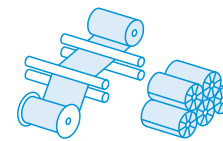
製鋼

製鋼で更に不純物を取り除き、鋼を作ります。鋼は加工しやすい鋼片にして貨車や大型車両でヤードや工場へ運ばれます。



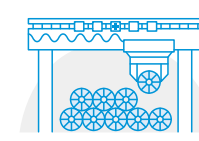
鋼片ヤード

鋼片は、次の工程に進むまでの間、鋼片ヤードで保管されます。



各工場

鋼片は各工場で再加熱され、目的や用途に応じた製品に加工されます。製品は各倉庫、ヤードまで運ばれます。



倉庫・ヤード

完成した鉄鋼製品は出荷までの間、倉庫やヤードで保管されます。徹底した品質管理がなされます。



お客様のもとへ

トラック・トレーラーなどを使った陸上輸送、大型船を使った海上輸送などで、国内外のお客様に製品が届けられます。

技術部門の4つの活躍フィールド

製鉄所の様々な工程の中で技術部門が携わっています！



物流技術

IE・OR手法を用いて作業の調査・解析や、自動化・遠隔化をはじめとする技術開発・作業改善を行い、物流の生産性向上に取り組みます。



設備技術

材料力学や制御工学等を用いて物流設備の企画・エンジニアリングを行います。導入後は設備の機能や整備性を改善し、設備のブラッシュアップを行います。



輸送技術

CAD・FEM解析等を活用して、橋梁・大型プラント等の重量物・容大物の船体強度に合わせた積付位置の検討や航海中の船の傾きや揺れに対応した固縛方法の検討を行います。



IT技術

物流に関する輸送管理・置場管理等の各種システムの企画から設計・開発・運用・保守までを行います。また機械学習(AI)による画像解析技術の開発やRPA導入による業務効率化を図ります。



寺田 蒼 てらだ あおい

所属部署 物流技術部 物流技術課

入社年度 2020年

専攻 工学部 船舶海洋工学科

入社理由

社員の方から聞いた、会社の姿勢に惹かれた

私は、船のように大きな構造物が好きだったため船舶海洋工学科に所属し、将来は巨大な車両や機器に囲まれた中で働きたいと考えていました。就職活動は、具体的な職種の希望がなかったため「どのような環境で働きたいか？」を重視していました。そんな中で、日鉄物流への入社を決めたのは、社員の方とお話をしたことがきっかけでした。性別関係なくフラットに働けること、若手社員を中心に積極的に制度改善を行っていく姿勢であることを知り、「この会社で働きたい」と思うようになりました。

仕事内容

前人未到の問題に、挑戦できる楽しさ

製鉄所内外の物流改善を目的とした技術開発や物流設計・システム開発を行っています。現在は主に、クレーンや構内車両の自動化、出荷に伴う検品作業の自動化に力をいれています。現状の作業工程の確認と実地調査、実績データの分析を行い、どうすれば自動化できるのかを検討したあと、操業に合わせた物流設計、実装、アフターフォローまでを一貫して担当しています。技術を進める中で悩むこともありますが、「人員削減」を軸に様々なアプローチを考え、前例がない課題に立ち向かえるのは挑戦しがいがあります。

社会に貢献していると感じるところ

“自動化”は、社会課題の解決策の1つ

私が取り組んでいる自動化の背景には、労働人口の減少や2024年ドライバー問題といった社会課題があります。作業効率をあげるシステム開発や、自動化を推進することは、社会課題の解決も担っています。日々の業務では目の前の作業に目がいきがちですが、自動化を成し遂げていくたびに社会へ貢献しているやりがいを実感します。また、多様な部署・人と協働する中で、重要なパイプ役としての成長も感じるとともに、製品の配送先を見るたびに「これほど遠くまで製品を運んでいるんだ」と物流の一端に携われていることを誇りに思います。

会社の推しポイント

部署を越えた、女性社員の繋がり

入社前、男性の多い職場で、休みも取りづらいかもしれないと不安に感じていました。ですが実際は休みが取りやすく、テレワークや産休・育休等の福利厚生も充実しています。また、社員の声を積極的に聞いてくれる社風があり、先日は女性社員を集めた意見交換会がありました。女性社員同士の繋がりができたことに加え、仕事の悩み相談、ライフイベントを経た働き方、産休・育休制度に関する事など、普段の業務の中ではなかなか聞けないお話を聞くことができました。結婚や出産などのライフイベントを考える時期になった今、こうした社風があることがとても心強いです。

働きやすい職場環境
ライフイベントを経ても、



室屋 鼓太郎 むろや ことろう

所属部署 物流技術部 設備保全課

入社年度 2020年

専攻 機械創造システムコース

入社理由

工場見学での、圧倒的な規模感に衝撃を受けた

人の役に立つ仕事がしたいという思いから、インフラ業界を中心に就職活動を始めました。私は幼い頃から乗り物の仕組みに興味があり、工作機械を使ったモノづくりの加工技術などを学んでいました。工場見学の際、製品になる前の大きな鉄素材を目の当たりにし、さらに鉄を運搬する機械の大きさや特殊さに衝撃を受けました。多くの方が日常的に触れる鉄はインフラの1つであり、学校で使っていた機器よりも何倍も大きく、特殊な設備の仕組みも知りたかったことが、日鉄物流への入社決め手になりました。

仕事内容

作業効率化のために、DX化に向けたシステム開発に挑む

現在は設備保全課で、製品梱包設備、フォークリフトやラムトラックなどの製品運搬用車両、石炭荷役を行うコンベア関係の設備保全業務を行っています。その中で私は、整備者が設備や環境の要因で整備しづらくなっている問題点を見つけ、よりよい環境にするための改善策の検討、導入に向けた予算の確保、実行までを一貫して担当しています。最近、毎月手入力で行っていた資料作成を効率化するためRPAを導入し、自動で入力したデータを基に解析ソフトで分析を行いました。その結果、作業時間が短縮され、毎月の作業の効率化に貢献できたときは嬉しかったです。

社会に貢献していると感じるところ

チームとなって運んだ鉄が、街中の建物に生まれ変わる

鉄は、たくさんの人の手でお客様のもとへ運ばれていきます。物流は多くの人や部署が1つのチームになって協働することで成り立つ仕事です。私自身は、鉄を実際に活用するお客様と直接関わることはありませんが、自分が携わった鉄が街中の建物に使われていることを知ったりすると、感慨深い気持ちになります。また、自分が作業改善に携わり、現場の方から「作業しやすくなった」「ありがとう」と感謝の言葉をもらえると、会社にも貢献していると感じられます。

会社の推しポイント

新しい知識を身に付け、実践できるチャンスも

入社前は機械系の知識しかないことが不安でしたが、日鉄物流には研修や勉強会の機会がたくさんあり、働きながら新しい知識が得られることが推しポイントです。さらに、学んだ知識を仕事の中で実践的に使う場もあるため、より知識が深められています。わからないことがあるときは、上司や先輩社員、または会社内にいる専門知識を持った方たちが、一からきちんと教えてくれるので、安心して業務に臨めます。明るく、温かい人柄の社員が多いため、配属された地区で知り合いがいなくて心細さを感じていた私は、プライベートでも気さくに交流してくれる先輩方の存在に救われました。

学生時代の知識に加え、
新しい知識も自分のものに



松岡 優希 まつおか ゆうき

所属部署	物流技術部 物流企画課
入社年度	2023年
専攻	総合理工学科 機械システム系

入社理由

物流業界の多彩な業務内容に惹かれて

私は、日鉄物流の業務の多彩さに惹かれ入社を決めました。学校の授業の一環で「たたら製鉄」を学び、鉄鉱石が加工によって鉄へと形を変えることに感動したことから、就職活動では製鉄業界を志望しました。その中で日鉄物流に出会い、学校で学んだ知識が生かせることにとても魅力を感じました。会社説明会では働いている社員の方々とお話をする機会もあり、チームでの仕事が多い中で、コミュニケーションに重きを置く社員の方の温かい雰囲気を感じ、一緒に働きたいと思いました。

仕事内容

現場、予算、安全面...全体を俯瞰して判断を下す

入社後3ヶ月間は研修があり、その後は先輩に同行しながら物流工程や仕事内容を覚えていきました。現在は物流企画課で、設備の新規導入の検討などを行っています。最近取り組んだのは、インゴットと呼ばれる鉄の塊を船から製鉄所内の加工場まで運ぶフォークリフトの導入検討です。機械の老朽化にあたり、部品の代替で済むのか、新規車両を購入したほうが良いのかを見極めるために現場でヒアリングを行い、現状の課題を把握、さらに、予算や安全面の課題なども検討材料に入れながら進めていきました。検討事項が多く難しさはありましたが、最も効率的に稼働できる方法として、フォークリフトの新規車両の導入を決めました。

社会に貢献していると感じるところ

導入した設備が改善に繋がると、自信になる

新規設備を導入した際、現場の方から「作業がしやすくなった」と感謝の言葉を聞くと、やりがいを感じます。新規設備の導入は、形や大きさが全く異なる鉄鋼製品に最適な設備を、学校で学んできた知識を使いながら強度計算などを行い、私が設計することもあります。メーカーや他部署と連携しながら何度もやり取りを重ね、試行錯誤した設備が実際に形になって実装されたときは大きな達成感があります。また、その設備が製鉄所の物流の一端を担っていると思うと社会に貢献していると感じます。

会社の推しポイント

安心してワークライフバランスが整えられる職場

日鉄物流の推しポイントは、会社の雰囲気が穏やかなことです。会社説明会のときから話しやすい社員が多いと感じていましたが、それは入社した今も変わりません。物流は、製品の梱包から積み上げ、運搬まで国内外問わずさまざまな部署や人と関わりながら業務を進めるため、チームプレーが重要です。部署間を越えた連携も日常茶飯事。そんな中で、上司・先輩は常に周りを気にかけてくれて、困ったことやわからないことがあれば丁寧に対応してくれます。福利厚生も充実しており、休みもとりやすくワークライフバランスを整えながら、安心して働くことができる環境です。

周り
と協働しながら、
物流というチームプレーを繋ぐ



森山 滉一郎 もりやま こういちろう

所属部署	物流技術部 物流技術課
入社年度	2020年
専攻	工学部 電気電子工学科

入社理由

基幹産業に携わり、新たな挑戦もできることが入社理由に

私は「インフラに携わることを軸に就職活動をしていました。学校では、私たちの生活と切っても切り離せない電気の知識を学びたいと思い、電気電子工学科へ。学校の近くに製鉄所があり馴染みがあったことと、研究室の教授の勧めもあり、鉄鋼業界への就職を考えるようになりました。その中でも、少子高齢化による人員不足で将来的にAIや自動化など技術革新が必要となる物流関連に携わってみたいと思い、日本製鉄グループの中核物流会社である日鉄物流に入社を決めました。

仕事内容

人員削減を目的とした、遠隔システムの構築を担当

物流技術課に所属し、物流設備の効率化を目指した新規設備の導入検討や、荷役設備の老朽更新業務を担当しています。最近では、クレーンで行う荷役作業の遠隔システムの導入を行いました。これは、大型の鉄鋼製品を扱うクレーン作業の効率化を目的とした業務です。というのも、運転席と吊具部分が30m以上離れているためにオペレータが吊具を目視で確認できず、1つの作業に複数人が必要という現状がありました。この課題を解決するために、吊具に無線カメラを設置し、運転席へ遠隔で映像を伝送することでオペレータ1人で作業を完了できるシステム構築を行いました。このシステムの導入のおかげで、人員削減を叶えることができました。

社会に貢献していると感じるところ

自分が運んだ鉄が、生活を豊かにしている

日常生活の中で、車や家電、衣類に至るまで、鉄は当たり前に使われています。「もし日鉄物流が鉄を運んでいなかったら、この製品は自分の手元にはないかもしれない」と考えたときに、この仕事に携われてよかったと感じます。自分が導入に携わった設備を経由して運ばれた鉄が、いずれ自分の生活を豊かにしてくれる。また、物流業界の人手不足やAI化・DX化という将来を見越した社会課題に挑戦できていることもやりがいです。過去からの豊富なノウハウと知見を活用しながら、新しい物流のあり方にチャレンジできるのは、日鉄物流だからこそだと思います。

会社の推しポイント

多くの課題に、知識と技術で立ち向かえる

身近に存在する鉄鋼製品を製造する過程で、上流全工程に携われることが日鉄物流の魅力です。まだ具体的な形がない鉄を運ぶところからスタートし最終ユーザに届けるまでが私たちの仕事です。製鉄所内は設備の老朽化、人手不足、作業環境問題などたくさんの課題があり、設備エンジニアリング・保全・物流改善等、学生時代に学んできた知識を活かすことができます。また、困ったときには上司や先輩が親身になって相談ののってくれる環境もあるので安心です。自動運転や遠隔操作設備など、最先端の技術を取り入れた設備に関われるところも推しポイントです。

社会のインフラを支え、
社会課題へも挑む



若手技術系社員に聞いた!

日鉄物流アンケート

若手技術系社員を対象に学生時代の話や日鉄物流のあれこれについてアンケートを実施。さまざまな質問に答えてもらいました!

Q. 学生時代の専攻は?

海洋学/商船系/電気電子/船舶安全学/メカトロニクス工学専攻/機械工学/理学/流通システム工学/機械/海洋工学/機械エネルギーシステム工学科/機械創造工学/情報メディア工学/ロボット・メカトロニクス/化学/船舶海洋工学科 等

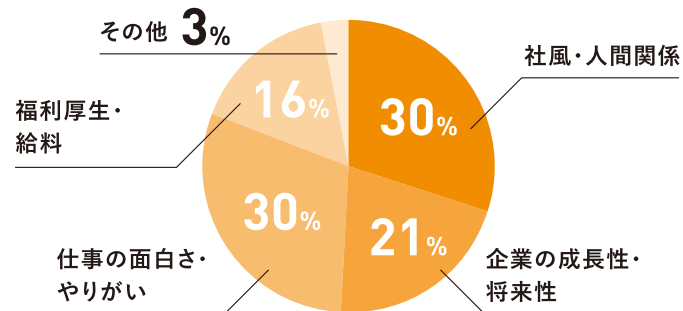


Q. 入社後、学生時代に学んだことが活かされたと感じるのはどのような時ですか。

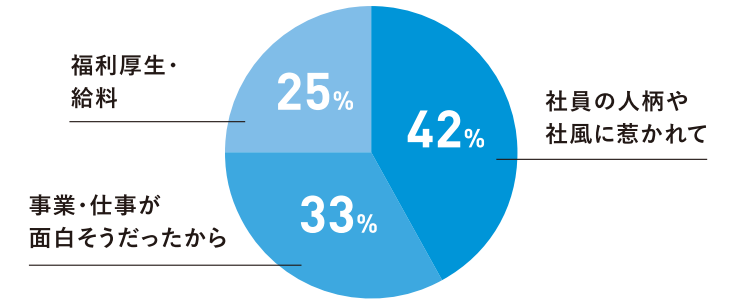


- ① 図面作成や強度等の計算時
- ② 制御ソフトや機器図面を読み解く時
- ③ 物理計算の知識、論理立てた物事を考える時
- ④ CADで作図する時
- ⑤ 設計業務やメーカーとの会話において専門的知識が必要な時

Q. 就活で大事にしていたことは?



Q. 入社理由は?



Q. 日鉄物流を一言で表すと?

目標に向かってチャレンジできる会社

ビッグスケール

鉄作りに必要不可欠

人との繋がりを大切にする会社

質実剛健



Q. 日鉄物流でやってみたいこと(貢献したいこと)

1. 人手不足解消や作業の安全化に向けた設備の自動化
2. 大型プラント物の輸送、今やってる仕事を極めたい
3. 全地区間を横断する情報共有システムの導入



Q. 休日の過ごし方



- ① ランチやカフェ
- ② スイーツ屋さんめぐり
- ③ 旅行、キャンプやゲーム
- ④ ドライブなど趣味をとことん楽しむ!
- ⑤ 同期や先輩と音楽ライブ・フェスに行く!

